

つながりがみつかる! つながりがはじまる!

twitter ★ http://twitter.com/#!/center_i

HP★<http://www.center-i.org/>

いちのせき市民活動センターニュースレター アイデア

NEWS LETTER IDEA

SEPT
2011
Vol.4



平成 23 年度地域での暮らしを考える 5 回連続講座

たびれっじ推進協議会



平成 23 年 9 月 17 日、(土) 10 時より、一関総合福祉センター大会議室を会場に行った「平成 23 年度地域での暮らしを考える 第 3 回講座」では、たびれっじ推進協議会代表の中本忍さんを講師に、「いなかのライフスタイルの提案」と題し、古民家を活用した都市農村交流についての講演を行いました。

「地域での暮らしを考える 5 回連続講座」は、一関社会福祉協議会、一関公民館、いちのせき市民活動センターの共同企画です。混迷する時代背景の中、地域社会や個人の生き方において、新たな方向性を見出すためにも、講演や事例発表を通して、地域で豊かに暮らすための「生き方のヒント」を学ぶことが目的です。5 月、7 月、9 月、11 月、2 月の第 3 土曜日に、一関社会福祉協議会、一関公民館、いちのせき市民活動センター、のそれぞれが順番に講座を開催。講座の内容は冊子にまとめることで、当日講座に参加できない方への情報提供を行っています。平成 21 年度から開始

し、今年で 3 年目となる本講座には、地域での暮らしに関心を持つ方が参加し、毎回異なる講座の内容に真剣に耳を傾けています。

今回講演を行った「たびれっじ推進協議会」は、「自然・文化・食」などの体験活動や、地域の方々との交流を推進している団体で、民間企業と個人からなる 29 名でいちのせきのグリーン・ツーリズムネットワークの活性化を目指し、様々な事業に取り組みます。

講師の中本さんは「なんにもしないと過ごし方は、実はもつとも贅沢な時間の使い方」と語り、ふだん何気なく自然の豊かな場所で生活していることが、都会で生活する人にとっては最高に価値のある「いなかぐらし」となる。地域の資源を見直し、全国へ発信していく事は、都市農村交流による経済効果、地域の活性化につながることを再確認。後半の事例紹介では、酒かすパウダー入り洗浄剤「福幸玉」を参加者に配布し、復興支援に向けた取り組みとして始めた、洗浄剤の製作

と、これまでの様々ないきさつなどを紹介。平成 23 年 4 月から開始した体験・市民農園の事業は、色鉛筆のイラストでまとめられたパンフレットに書かれた「自由」という言葉が印象的。「農村の写真ではなく、手書きのイラストで、やわらかい雰囲気表現したかった」と中本さんは語ります。

第 4 回目となる今回の「地域での暮らしを考える 5 回連続講座」は平成 23 年 11 月 19 日(土)午前 10 時から同会場で行われる予定。講師に法泉寺の住職である吉家本浄さんを招き、「今を生きる」をテーマにした講演を行います。実践事例発表では、磐井病院のがん患者・家族サロン「こころば」開設までの活動に視点を当てた事例を紹介。申し込みは不要で、受講料は無料です。

■たびれっじ推進協議会

〒021-0882

岩手県一関市上大槻 1-5

☎019113116007

- 2 | 地域での暮らしを考える5回連続講座
たびれっじ推進協議会 中本忍さん

- 4 | いちのせき市民フェスタ 11
東日本大震災からの復興に向けて、一関から支援します！

- 5 | 全国地域事例トレーディングパーク
全国の市民活動や地域づくり活動の事例フリーマーケット！

- 6 | 市民活動団体の紹介（千厩町）
共同組合千厩新町振興会 金野 茂人さん

- 7 | 老松活性化同志会
陸前高田市の避難所へ新鮮な野菜をお届けしました。
10月のイベント・ボランティア情報

- 8 | ファンスポルト一関
VIVALE 二部リーグ開幕戦！！
新加入した選手五人を紹介します／浅利監督あいさつ



9月の表紙

室根12区の蕎麦畑（室根町）

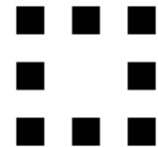
室根町にある「室根12区自治会」の自治会長を務める三浦幹夫さんは、個人所有の森で、ツリクライミングや、バーベキューなどを始めとして、子ども達に様々な自然体験を提供しているそう。養分を豊かに含んだ森の中の柔らかい土の上には、栗の実が辺り一面に広がり、森の入口にある蕎麦畑には、白い小さな蕎麦の花が、あたり一面に咲き誇っていました。

いちのせき市民活動センターニュースレター idea は、市民活動がアイデアを持って NPO と行政や企業。市民との出会いの機会を創りだすことを目的とした情報誌です。センター情報をはじめ管内の市民活動団体情報や行政情報をお届けします。

いちのせき
市民活動センター
center-i

「ひとりの困った」を
「みんなの困った」に！

地域住民は何を必要としているのか、何をしたいのか、地域の課題は何か。自分たちができることは何かを一緒に考えます。



ロゴマーク

9月26日に合併をした藤沢町を含めた「8つの地域」が創る1つのひろば「スクエア」を象徴的に表しています。

営業案内

- 開館日 月曜～土曜
- 開館時間 9時～18時
- 休館日 日・祝日&年末年始

いちのせき市民活動センター
〒021-0881 一関市大町4-29
☎&fax 0191-26-6400
千厩サテライト
〒029-0803 千厩町千厩字町149
☎ 0191-48-3735
Fax :0191-48-3736



いちのせき市民フェスタ 11

～東日本大震災からの復興に向けて一関から支援します!～ 2011. 8. 28



朝の8時半、一関駅東口のデッキには、たくさんの方が集まりました。全員が市民活動団体の職員です。集まったのは、いちのせき市民フェスタの会場準備のため。久しぶりに顔を合わせる人も、そうでない人も、同じ「まちづくり」に向かって活動している仲間との交流の場に、安心して何ようでした。「NPOって何だろう?」「市民活動って何だろう!?!」、そんな疑問を持つ人にもぜひ訪れてほしい、NPOのゆるやかなネットワークと交流の場。そんなイベントを、ここの一関市で毎年開催しています。

今年で6年目となる「いちのせき市民フェスタ」は、「いちのせき市民活動促進会議インアーチ」によって運営されています。市内の団体は「福祉」「環境」「育児」など、異なる分野で活動をしています。地域の課題を解決するために、必要に応じて、共同で事業展開

ができるような「話し合いの場」をつくらう・・・そんな想いがきっかけで、平成16年にこの組織が生まれました。

当日は東口交流センターの全体を使い、各団体が活動内容を紹介したり、生産している特色ある製品を販売したり、ステージではイベントを披露したり、初めて市民フェスタを訪れた人が楽しめるような、工夫のある方法で活動を発表しました。普段はあまり接することのない異なる分野の団体の人も話すきっかけが生まれ、活動について教えてもらい、「へえー、こういうことをやっている団体なんだ〜!」と気づききっかけになったり、当日は自然に会話が生まれ、お互いの情報を交換したりして、会場のいたるところで笑顔と交流が生まれるような、市民フェスタの目的である「交流を深める」場になったようです。



かき氷、フランクフルト、葉焼き、塩キャベツ、ホルモン焼き、かぶぶかしなど、屋台のブースは種類も味も栄養も豊富。ヘッドホン、発明品、発電機など、活動の成果の発表、色や文字を工夫した模造紙、メンバーの写真、手づくりの紙芝居の紹介など、どの団体も楽しい内容です。生製品の販売も魅力ある商品が並び、当日訪れた人も商品を手にとつて眺め、職員との会話ははずんでいました。

実際に東口でイベントを開催してみると、「ここはこうだったらいいよね」など、改めて気がついた点も多く、スタッフの動きも含め、これからの活動に生かしていく事が今後の課題です。

最後になりましたが、前日までの打ち合わせ、前日準備、当日の準備と撤去作業など、すべて参加団体の皆さまによる協力のもとで開催することができたことに深く感謝しています。



全国地域事例トレーディングパーク

～全国の市民活動や地域づくり活動の事例フリーマーケット～



全国地域事例トレーディングパークとは、全国の地域づくり活動の事例フリーマーケット。先進事例の閲覧・活動資料等が入手でき、全国から持ち寄った事例を発表しあうことで、お互いの活動の参考にすることができま

平成21年度からは始まり、今年で3年目。また、今年度は東日本大震災によって被災した地域の復興支援を行う団体も招致し、支援の状況などを広く発信しました。地域づくり支援事業は、「成功」「失敗」という分け方で評価されるものではありません。行動を起こさずきつかけとなつた気づきから、計画・行動・振り返りまでのプロセス全体がひとつの「事業」として価値



をもっています。そこで、みんなで考えたアイデア・事業にかかったお金・事業にかかった時間の価値を自分たちで保障するため、発表するだけでなく、地域づくり事業に関する情報として資料を「販売する」取り組みを始めました。

■全国の事例を学ぶ
当日は、岩手県から5団体、宮城県から2団体、福島県から1団体、茨城県から1団体、京都府から1団体、東京都から2団体、合計12団体に参加いただきました。活動状況と災害復興に向けた取り組みについてスライドで紹介し、地域事例のトレーディングを行いました。発表時間は各団体10分前後。



■何をすべきか？
また、「これから私たちが復興のためにすべきこと」をテーマに、各団体現在と今後の支援活動について、福島第一原子力発電所の事故や、今後考えられる被災地での課題などにも触れ、各団体の強みを生かした支援の可能性について意見を出し合いました。

地域づくりを行って



【協同組合千厩新町振興会】

◆8月30日、協同組合千厩新町振興会の金野茂人さんにお話を伺いました。組織の歴史は古く、昭和30年ころから任意団体として活動を開始。その後区画整理事業の進行に伴い、組織を協同組合として法人化。現在の会員数は32人で、地元商店街だけでなく、活動に賛同する15名ほどの人が活動に参加するそうです。月に1回行われる会議には、一関市役所千厩支所の産業経済課の課長、係長、さらに商工会議所が参加します。



普通のまちの駅の様子。



JaJa馬ミュージックフェスタでの演奏。

「喧々譁々の話し合いがあったから、かえって組織がかたまった。」と語る金野さんは、一関市の合併を機に、平成18年から4代目の理事長として活動を行っています。新町にある文房具店「中上屋」を営む傍ら、地域の人たちと一緒に街づくりの活動に携わっています。

「話し合いは、商店街の人たちが、協力的な人が多いので、やりやすい。」と金野さんは語ります。意見を言ったときに「失敗したらどうするのか？」などという否定的な意見が出ることは少ないといいます。もともと、昭和63年に着工した区画整理事業や、「産直の機能を持ったまちの駅を作りたい」という話が出た所から、「地域住民による話し合い」は続いたそう。まちをどうするか、どうすれば元気になるのか…

■「やろう、やろう」という雰囲気があり、最終的にやってよかった、という感じがある。

「喧々譁々の話し合いがあったから、かえって組織がかたまった。」と語る金野さんは、一関市の合併を機に、平成18年から4代目の理事長として活動を行っています。新町にある文房具店「中上屋」を営む傍ら、地域の人たちと一緒に街づくりの活動に携わっています。

「話し合いは、商店街の人たちが、協力的な人が多いので、やりやすい。」と金野さんは語ります。意見を言ったときに「失敗したらどうするのか？」などという否定的な意見が出ることは少ないといいます。もともと、昭和63年に着工した区画整理事業や、「産直の機能を持ったまちの駅を作りたい」という話が出た所から、「地域住民による話し合い」は続いたそう。まちをどうするか、どうすれば元気になるのか…

■「いいかわるいかわからないものはやったほうがいい」という考えでやっている。

そんな、明るく前向きで、新しいことへの挑戦を続ける千厩新町振興会のイベントには、みんなが出てくるようになったそう。片付けの作業も、「みんなでやると30分ほどですべて終わってしまふ」んだとか。千厩の商店街の活発な動きが伝わったのか、九戸村と二戸の広域振興局から三人が視察に訪れたといいます。現在は、新町JaJa馬プラザで「あおぞらいち」を運営する「せんまや青空市組合」の小野寺さんと、金野さんの2人が中心となり、活動を進めているそうです。コンサートなどのイベントでは、同会のメンバーである、角蔵ホール及び川さんが、知り合いのアーティストを呼ぶなど、各自の得意な分野を生かして、活動を行っているそうです。にぎやかなイベントには、合計で2、3千人の人が訪れるといま

そんな、明るく前向きで、新しいことへの挑戦を続ける千厩新町振興会のイベントには、みんなが出てくるようになったそう。片付けの作業も、「みんなでやると30分ほどですべて終わってしまふ」んだとか。千厩の商店街の活発な動きが伝わったのか、九戸村と二戸の広域振興局から三人が視察に訪れたといいます。現在は、新町JaJa馬プラザで「あおぞらいち」を運営する「せんまや青空市組合」の小野寺さんと、金野さんの2人が中心となり、活動を進めているそうです。コンサートなどのイベントでは、同会のメンバーである、角蔵ホール及び川さんが、知り合いのアーティストを呼ぶなど、各自の得意な分野を生かして、活動を行っているそうです。にぎやかなイベントには、合計で2、3千人の人が訪れるといま

■復興への願いを込めて、自分達にできることをやっていきたい。

協働組合千厩新町振興会
☎019115212408

老松活性化同志会



■花泉町から陸前高田市へ

いちのせき市民活動センターでは、老松活性化同志会より、東日本震災の復興支援として4ヶ月間にわたり、新鮮な野菜を提供していただきました。

平成23年8月13日に、避難所で生活をしていただすべつの方の仮設住宅への入居が完了しました。陸前高田市高田町の西和野仮設住宅の自治会長を務めている、菅野さとみさんは、お子さんと2人で地竹沢公民館避難所での避難生活がおよそ5ヶ月間続き、陸前高田市で最後まで仮設住宅の抽選を待っていたといます。そんな中、避難所へ届けられた野菜は、新鮮な状態で、自炊をしている人で仕分けを行い、調理して食べることもできたので、みなさんとても喜んでいました。

■現状を知るために

また、現在29世帯が暮らし避難所では、抽選に当たった人がすべて働き盛りの元気な人ばかりで、アンケートの結果、多くの地域で「ぜひ必要だ」という声の多い「集会所」についても、「集会所はいらぬ」という声が多く、もともと同じ地域に暮らしていた顔なじみの人が暮らす仮設住宅では、コミュニティが維持されているといえます。

メディアでとりあげられる仮設住宅の様子には偏りがあることから、実際に現場に来て、見てみたいと分らないことがたくさんある、と菅野さんは言います。陸前高田市の避難所へ野菜を届ける支援活動では、継続的に、団体のつながりを生かしながら、支援を続けていくことができたことに感謝しています。

10月のイベント・ボランティア情報

一関世代にかけの橋では、子ども達と遊ぶイベント「第43回子どもの森」を開催します。ボランティアも募集中です。

- 10月29日(土)
- 10:00~14:00
- 山目公民館
- 申込不要・無料
- 0191-23-9721

どんぐりの会では、いやしの空間セミナーを開催します。講師は一関病院医療相談室室長の小野寺達也さんです。

- 10月2日(日)
- 13:00~15:00
- 蔵ピノキオ本宅
- 申込必要・1人500円
- 0191-25-3452

一関地球温暖化対策地域協議会では、人や自然のつながりのある暮らし「幸せの経済学」上映会、ワークショップを開催します。

- 10月8日(土)
- 13:30~16:00
- 一関市立川崎図書館
- 申込不要・無料
- 0191-21-8342

パカポクラブでは、しょうがいのある方を対象とした、馬とのふれあいを通じたアニマルセラピーの乗馬会を開催します。

- 10月23日(日)
- 10:00~12:00
- 佐々木牧場
- 申込必要・1000円
- 0191-82-5584

NPO 法人一関文化会議所では、「ふるさと学習院」閉講式記念講座「花泉地区の歴史と史跡について」を開催します。

- 10月22日(土)
- 13:00~16:00
- 一関市総合福祉センター
- 申込必要・1200円
- 0191-32-4333

NPO 法人全国地域学習振興会では、小野寺塾指導ネットワークにて、そろばん学習の基本を学べる、体験学習会を開催します。

- 土日祝日を除く平日
- 16:00~17:00
- 認定教場(宮下町5-23)
- 申込必要・無料
- 0191-82-5584

たびれっじ推進協議会では、アウトドア生活を通じた防災教育「いちのせきチャレンジキャンプ2011・秋」を開催します。

- 10月1日(土)~2日(日)
- 8:30~翌日16:00
- いちのせき健康の森
- 申込必要・2500円
- 0191-31-6007

協同組合千厩新町振興会では、「復興支援!高校生バンドバトル」を開催します。志津川、気仙沼、陸前高田からも参加します。

- 10月8日(土)
- 15:00~18:00
- 新町JaJa馬プラザ
- 申込不要・無料
- 0191-52-2408

一関世代にかけの橋では、収集ボランティアを募集します。歯ブラシ、ペットボトルキャップ、書き損じはがきなどを募集します。

- 毎週火曜日
- 18:00~20:00
- 山目公民館
- 申込不要・無償
- 0191-23-9721

一関世代にかけの橋では、イベントの遊具準備・後始末と、子どもと遊ぶボランティアを募集します。動きやすい服装で来て下さい。

- 10月29日(土)
- 9:00~15:00
- 山目公民館
- 申込必要・無償
- 0191-23-9721

いちのせき市民活動センターでは、人間関係づくりに視点を当てたワークショップを開催します。講師は熱海アイ子さんです。

- 10月8日(土)
- 11:00~17:00
- Point1
- 申込必要(残席僅)・無料
- 0191-26-6400

いちのせき市民活動センターでは、「会議の進め方」に視点を当てた、話し合いのための地域づくり支援講座を開催します。

- 10月26日(水)
- 19:00~21:00
- いちのせき市民活動センター千厩サテライト
- 申込必要・無料
- 0191-48-3735

VIVALE 東北2部北リーグ開幕戦

9月11日、今期昇格した東北2部北リーグ初戦に挑むヴィヴァーレは青森県・新青森総合体育館でH・F・A Itaticaと対戦し、6対5で惜しくも敗れました。前半開始早々に相手チームのファウルによるレッドカードでPKを獲得。ゴールを決め幸先の良い試合展開に。前半は3対1とリードしましたが、後半に入ると相手チームは素早い動きとパスカットなど後半早々で同点に追いつかれ試合は一進一退の緊迫した内容に。ヴィヴァーレにも何度もチャンスは

訪れるも得点を得ることができず、試合終了30秒前に相手チームが得点。6対5と初戦は惜敗となりました。今期の2部リーグは震災の影響で試合数が少ないこととで初戦の敗退は厳しい結果とともに、2部リーグの洗礼を浴びた形になりましたが、ベストメンバーで試合に臨めなかったのも厳しいものとなりました。1部昇格のためには勝ち続けるしかないヴィヴァーレ。次回はホーム戦・一関市東山町で10月22日に試合予定です。



9月3日に行われたVIVALE決起集会の様子。スポンサーの方々に表情を引き締めた選手達。

■今後の試合日程

- ★10月22日 東山総合体育館 14:10～ V.S Glitter
- ★11月5日 滝沢総合体育館 10:30～ V.S Master piece
- ★11月19日 大館樹海体育館 10:30～ V.S ROSSO

詳細はHPにて!!

<http://funspo.web.fc2.com/fc2/index.html>

■4月以降、新加入した選手5人を紹介します。

- ゴールキーパー
鈴木秀樹 (スズキヒデキ)
 - フィールドプレイヤー
小山輝之 (オヤマキユキ)
 - 阿部真也 (アベシんヤ)
 - 氏家俊祐 (ウジエシユンスケ)
 - 山田駿 (ヤマダシユン)
- この5人を迎えて、練習を続けていきます。

■浅利真監督あいさつ

これまでの活動経緯と、東北リーグの決意表明をお話しさせていただきます。

チームは岩手県フットサルリーグに優勝し、皆様に報告をしました。年明け、東北リーグで戦うという事で、厳しい練習をし、震災の影響で休止となり、震災の復興のため、自分達にできることは何か、ということとを頭に入れて活動をしてきました。選手も感じたことですが、こうして何不自由なくボールを蹴れるという事に、もっとがんばらなくちゃな、という事を感じています。

これまで、東北リーグの開幕に向けて、活動をしてきました。七月に入り、東北連盟から、リーグ戦を9月に開始するという話があり、トレーニングマッチを週末にこなし、組織力の底上げを図ってきました。1年と半年、フットサルの経験の浅いチームなので、選手は伸びた部分もあり、まだまだ高めていかなければならないと考えています。

いよいよ9月11日から東北リーグが始まります。東北北リーグは総当たりで、短期間の試合で必ずや優勝を成し遂げて、入れ替え戦で、優勝し、来年は東北1部リーグで戦えるようにしたいです。最高でも最低でも1部昇格を今年の目標として考えています。選手は日々のトレーニングで、11月は選手がいい報告ができるようにがんばっていきましょう、よろしくお祈りします。